



## 漢方の RCT 論文における “duplicate publication”

○北川 正路<sup>1)2)</sup> 津谷喜一郎<sup>3)4)</sup>

- 1) 日本東洋医学会 EBM 特別委員会エビデンスレポートタスクフォース
- 2) 東京慈恵会医科大学学術情報センター
- 3) 日本東洋医学会 EBM 特別委員会
- 4) 東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学

国際医学雑誌編集者委員会 (International Committee of Medical Journal Editors : ICMJE) が発表している投稿のためのガイドラインである *Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals (URM)* には、1984年の改定から duplicate publication に関する言及があり、すでに発表された研究内容について投稿する場合は編集委員会の承認を得ることが必要であると定められている。国内外の学会・編集委員会においても duplicate publication の扱いに関心が払われるようになってきたが、統一された規定は存在しない。日本東洋医学会 EBM 特別委員会では、漢方製剤のランダム化比較試験 (RCT) 報告を『漢方治療エビデンスレポート』として公表しているが、ここに収載されている RCT 論文／報告における duplicate publication はどうなっているだろうか？

『漢方治療エビデンスレポート』に収載されている漢方製剤に関する1986年以降の RCT の論文／報告を対象とした。それらの中に duplicate publication と判断されるものはあるか、もしあればどのような形式で duplicate publication がなされているのかを分析した。論文／報告数は405編であった。なお、『漢方治療エビデンスレポート』に収載されている RCT 論文／報告には、Cochrane Central Register of Controlled Trials と医学中央雑誌 Web から検索されたもの (2008年7月9日) と日本漢方生薬製剤協会から提供を受けたものが含まれている。

RCT としては330件であったが、これらのうち55件に関して「重複」発表があった。すなわち、55件に対して計130編の論文／報告が発表されていた。その内訳は、「原著論文」：39編、学会や研究会での講演を文章化したもの：35編、二次文献：32編、広告・記事：7編、年報など：3編であった。ここで「原著論文」とは、要旨、方法、結果、考察、引用などの項目からなる形式をもち、「学会や研究会の講演に基づき文章化したもの」や二次文献ではないものとし、レフェリーの有無、雑誌の種類は問わなかった。55件中「原著論文」がある研究は39件であり、そのうち「原著論文」が2編あるものは14件であった。14件に関するそれぞれ2編の「原著論文」で後に発行されたものの内訳は、ほぼ同じ内容と判断できるもの：4編 (うち2編は別言語)、症例追加などだが前報を引用していないもの：6編、症例追加などで前報を引用しているもの：4編であった。

漢方製剤に関する RCT 論文／報告の中に、duplicate publication と判断されるものが存在することが明らかとなった。既発表内容を編集委員会の了解を得ずに投稿することは不正行為とされており、不正に投稿・公表された duplicate publication が掲載誌から撤回となった例もある。医学中央雑誌 Web では2008年8月から「撤回論文」という表示の記載が開始されたが、duplicate publication のために撤回となった論文もこの表示の対象となる。また、インターネット上には、duplicate publication 防止のために、MEDLINE の抄録から論文間の類似性をテキスト分析して duplicate publication の可能性のある論文を一覧するシステムである *deja vu* も公開されている (<http://spore.swmed.edu/dejavu/>)。国内外において出版倫理への関心が高まっており、研究成果の発表の際には duplicate publication について配慮する必要がある。漢方製剤の RCT 報告に関する関係者は著者 (研究者)、雑誌編集者、企業担当者などと多岐にわたるため、これら関係者に注意を促すとともに、また報告が掲載される各雑誌の投稿規程に duplicate publication に関する記載を加えることも求められるであろう。

### 略歴

- 1985年 図書館情報大学図書館情報学部卒業
- 1985年 東京慈恵会医科大学学術情報センター (現・学術情報センター) 勤務、現在に至る
- 2003年 図書館情報大学大学院情報メディア研究科博士前期課程終了
- 2008年 日本医学会日本医学雑誌編集者会議組織委員会

## エビデンスレポートプロジェクト(4) 漢方のRCT論文における “duplicate publication”

第60回日本東洋医学会総会  
フォーラム「漢方のエビデンスを『つたえる』」  
2009.6.21(日), 東京

北川正路<sup>1)2)</sup> 津谷喜一郎<sup>1)3)</sup>

- 1) 日本東洋医学会EBM特別委員会  
エビデンスレポート・タスクフォース
- 2) 東京慈恵会医科大学学術情報センター
- 3) 東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学

ver. 1.2 1

## “duplicate publication” とは

“本質的に同じ内容の論文を繰り返し出版すること”

- National Library of Medicine (NLM : 米国国立医学図書館)  
“an article that substantially duplicates another article without acknowledgement by assigning both articles”  
(<http://www.nlm.nih.gov/pubs/factsheets/errata.html#duplicate>)
- International Committee of Medical Journal Editors (ICMJE: 医学雑誌編集者国際委員会)  
Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals (URM)  
(生物医学雑誌への統一投稿規程)

1982年版

“Prior and duplicate publication: a paper on work that has already been reported in a published paper or is described in a paper submitted or accepted for publication anywhere.”

2008年10月版

“Redundant (or duplicate) publication is publication of a paper that overlaps substantially with one already published in print or electronic media.”

2

## “duplicate publication”の特徴

- 外見(タイトル、抄録)からでは、先行論文とは異なる内容と受け取られる。
- 先行論文とは異なる雑誌で出版される。
- 先行論文への言及、引用がない。
- 出版雑誌の分野により、著者順序を変更する。

作田英成. 余計な医学論文. 防衛衛生 1997; 44(59): 139-44.

Publish or Perish

“研究者は論文発表数を増やすというプレッシャーをかかえている”

山崎茂明. パブリッシュ・オア・ペリッシュ. 東京: みすず書房; 2007.

3

## “duplicate publication”に関わる問題

- 増大する出版文献量に余計な出版物を加える。
- 原著論文のために確保されている雑誌のスペースを無駄にする。
- 編集者、査読者、読者の時間を浪費する。
- 編集者に投稿原稿が“duplicate publication”となるかの確認作業の負担を与える。
- 実験結果の増大は、メタアナリシスに不適切な影響をもたらす。
- 科学の健全性(Integrity of Science)の崩壊につながる。
- 著作権を侵害する。

Kim SY, Hahn CK, Bae CW, Cho HM. Duplicate Publications in Korean Medical Journals Indexed in KoreaMed. *J Korean Med Sci* 2008; 23(1): 131-3.

Jones AH, McLellan F, editors. *Ethical Issues in Biomedical Publication*. Baltimore: Johns Hopkins University Press; 2000. 374p.

4

## Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals (URM)

(International Committee of Medical Journal Editors: ICMJE)

(Updated October 2008)

### III. D. 重複出版(Overlapping Publications)

1. 多重投稿(Duplicate Submission)
2. 余剰出版(Redundant Publication)
3. 容認される二次出版  
(Acceptable Secondary Publication)
4. 同一研究について執筆された競合原稿  
(Competing Manuscripts based on the Same Study)
5. 同一のデータベースに基づいて執筆された競合原稿  
(Competing Manuscripts based on the Same Database)

<http://www.icmje.org/> 5

## 容認される二次出版 (Acceptable Secondary Publication)

- 著者が両方の雑誌の編集者から許可を得ていること。
- 二次出版の論文が異なる読者を対象としていること。
- 二次出版の内容は、初版のデータおよび解釈を忠実に反映していること。
- 二次出版のタイトルページに掲載される脚注において、その論文あるいは一部は過去に掲載されたことがあるという旨を読者、査読者、著作権管理機関に対して告知し、初出文献を示すこと。ほか

中山健夫, 津谷喜一郎(編著).  
臨床研究と疫学研究のための国際ルール集. 東京: ライフサイエンス社; 2008.

6

## “duplicate publication”の 掲載誌からの撤回事例

- 撤回事例
- 文献情報データベースの対応

7

医中誌Webでの撤回論文の記載

8

2008132699

【撤回論文】閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者の血漿アドレノメデュリン濃度に対する持続性気道陽圧治療の影響 夜間低酸素血症とオキシダントストレスの役割(Effect of Nasal Continuous Positive Airway Pressure Treatment on Plasma Adrenomedullin Levels in Patients with Obstructive Sleep Apnea Syndrome: Roles of Nocturnal Hypoxia and Oxidant Stress)(英語)  
Author: Yamamoto Hiroshi (東京大学 医学部助産医学), Teramoto Shinji, Yamauchi Yasuhiro, Ouchi Yasuoshi  
Source: *Hypertension Research* (0918-9636)30巻11号 Page1065-1076 (2007, 11)

論文種類: 原著論文/比較研究  
シノラス用語: Oxyhaemoglobins(血球); 活性酸素; \*低酸素血症(病因); 白血球; 鼻; \*酸化ストレス; 重症度指標; 治療成績; マッチング分析; \*睡眠時無呼吸 閉塞性(合併症/治療); \*Adrenomedullin(血球); \*持続気道陽圧

チェックタグ: ヒト; 中年(45~64); 男

Abstract: 【撤回論文】---当該文については、「Hypertension Research」31巻4号(2008年4月発行)の823ページに「二重投稿の公示(Notice of Duplicate Publication)」として撤回が告知された---(以下抄録)閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSA)患者48例、年齢、BMIを一致させたOSAのない対照群40例、年齢を一致させBMI正常のOSAのない対照群40例を対象とした研究を行った。OSA患者の血漿アドレノメデュリン(ADM)濃度及び白血球の反応性酵素種は2つの対照群と比較して有意に高値であり、2つの対照群間には有意差はなかった。OSA患者に持続気道陽圧治療を施行すると血漿ADM濃度、白血球の反応性酵素種とも1ヵ月後には有意に低下した。

9

Notice of Duplicate Publication

Hiroshi Yamamoto, Shinji Teramoto, Yasuhiro Yamauchi, Yasuoshi Ouchi: Effect of nasal continuous positive airway pressure treatment on plasma adrenomedullin levels in patients with obstructive sleep apnea syndrome: roles of nocturnal hypoxia and oxidant stress. *Hypertension Res* 2007; 30: 1065-1076.

The above article published in Volume 30, No. 11 (November) is a duplicate publication published in *Sleep Medicine* as follows:

Hiroshi Yamamoto, Shinji Teramoto, Yasuhiro Yamauchi, Yoko Haseoka, Masaki Ichii, Shinichiro Hibi, Yasuoshi Ouchi: Long-term oxygen administration reduces plasma adrenomedullin levels in patients with obstructive sleep apnea syndrome. *Sleep Med* 2007; 9: 80-87.

With this notification, *Hypertension Research* is now withdrawing the article published in its 2007; 30 (11) issue.

Note from the Editor-in-Chief

Duplicate publication of essentially the same data constitutes a violation of copyright law and of the ethics of scientific publication. When there is doubt about the common success, overlapping, or coincidence of data in articles that are based on the same study, the author(s) must disclose any information about their contribution being under consideration or accepted by another journal at the time of submission of a manuscript.

Kazuyoshi Shimada  
Editor-in-Chief  
*Hypertension Research*

Hypertension Research 2008; 31(4)に掲載された撤回告知

10

## 『漢方治療エビデンスレポート(EKAT 2009)』収載の 論文/報告における“duplicate publication”は どうなっているだろうか？

複数の論文/報告に基づくstudy53件の内訳			
		(study数)	(paper数)
1 study	2 papers	42件	82編 *
1 study	3 papers	9件	27編
1 study	4 papers	1件	4編
1 study	5 papers	1件	5編
合計		53件	118編

\*2編の論文/報告が重複利用されている。

11

## 複数論文/報告に基づくstudy (53件) は どのような形で報告されているだろうか？

複数の論文/報告に基づくstudy53件に含まれるpaper数	
“original”論文	37編 (study 24件)
“quasi-original”論文	13編 (study 6件)
学会・研究会記録	30編
二次研究	28編
広告	7編
科研費報告・年報	3編
合計	118編

12

## おわりに

- 本研究は、『漢方治療エビデンスレポート (EKAT 2009)』に掲載する構造化抄録(SA)を作成する過程でなされた。知る範囲では、国内で最初の“duplicate publication”の事例調査に基づいた研究である。
- 複数論文/報告に基づくstudy53件中、9件(17%)に取り上げられた論文/報告に、“duplicate publication”が存在することが明らかになった。
- 医学研究者、編集者の中で出版倫理への関心が高まっており、“duplicate publication”の扱いにさらに注意する必要がある。